

災害時、避難者らに暖を

災害時に役立ててもらおうと、舞鶴市の建材販売会社が、丈夫さと断熱性が売りの防災シートを開発した。丹後を治めた戦国武将・細川幽斎(藤孝)が、市内の田辺城に「避難」して繰り広げた籠城戦にちなみ、「ゆうさいくん」の籠城シート」と命名。避難所となる体育館などのほか、帰宅困難者が過す駅やビルの床に敷いて活用できるといい、3月から自治体に売り込みたい考えだ。

(藤井浩)

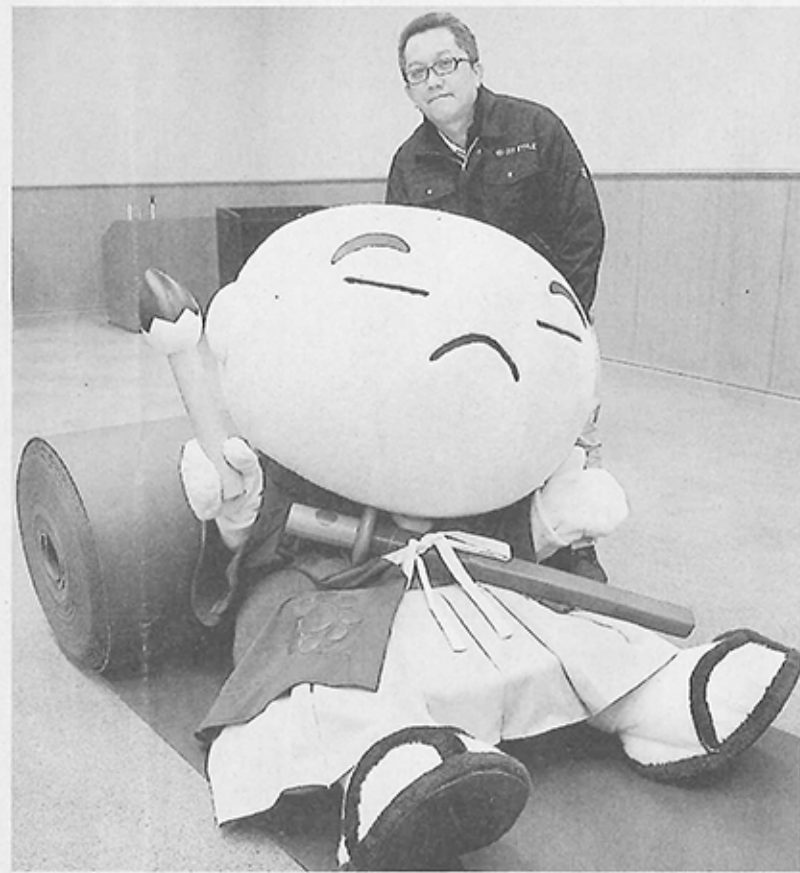
建材などを開発し、インターネットで販売する同市喜多の「DIY STYLE E」(ディアイワイ・スタイル)が完成させた。

東日本大震災で被災者の避難光景を見る度に、「床、冷たいやろなあ」と心を痛めていた社長の森本隆さん(40)は昨年2月、市内で行われた防災訓練で、東北へ派遣された自衛隊員らに「取材」。「避難所の床に段ボールやベニヤ板を敷き、布団にくるまっても、床から伝わってくる寒さはこたえる」と聞いた。

厳しい寒さに見舞われるのは地元・舞鶴も同じ。「手軽に暖が取れ、収納も楽なシートがあれば」と、住宅の床と表面材の間に張る自社製品のシートを基に、約1年かけて開発した。

シートは一巻きが長さ50材で、幅1材、厚さ5mm。発泡ウレタン製で、材質密度

を高めて破れにくくし、高い断熱性で床の冷たさを伝えにくいのが特徴だ。一巻き9万円だが、カッターナイフで簡単に切れ、1人1材とすると50人分、1人分で1800円の計算となる。丸めると直径約60cm、重さ17kgで備蓄もしやすい。シートの名前は、関ヶ原



舞鶴の業者 破れにくく収納も楽

の戦い(1600年)で東軍に付いた幽斎が、500人程度で臨んだ籠城戦で、2か月近く1万50000人の敵をくぎ付けにしたことにちなんだ。森本さんは「非常時、限られた物資で危機を切り抜けた先人は、防災の達人」ととらえ、自身が所属する舞鶴商工会議所青年部のゆるキャラ「ゆうさいくん」の使用許可を得てPR。「子どもや高齢者らの避難時、急場をしのぐのにも役立つはず。何度も様々なテストを重ねて仕上げた」と話している。

問い合わせは、同社(0773・78・1807)へ。

シートに横たわる「ゆうさいくん」と森本さん(舞鶴市で)